

---

# 白樺の詩（うた）

きりもんじ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

白樺の詩<sup>うた</sup>

### 【Nコード】

N6694F

### 【作者名】

きりもんじ

### 【あらすじ】

毎年夏に訪れる白樺湖で書いた短歌をまとめてみました。

夏になると白樺湖に出張で約2ヶ月の間1人で  
色々ものを考え、小説などを書き続けています。

短歌もありますのでまとめてみました。

白樺湖は標高1400m。夏はとても涼しく快適です。

2003年 夏

ふと見れば 野に咲く花は 君に似て  
京を偲びつ うぐいすの声

（寮からお店まで白樺の林を抜けてテニスコートの  
坂道を下りていきます。早朝、白樺湖の向こうに  
は車山がとても綺麗に大空に浮んでいます。  
ふと足元を見ると、白い野菊が咲いていました。  
うぐいすの声がすぐその林から聞こえます）

白樺の 隅に群れ咲く ラベンダー  
京都懐かし 鼻太郎 なつかし

（鼻太郎は京都で飼っていたライオンウサギです）

2004年 夏

白樺に 負けじ花咲く コスモスは  
風にも倒れず 雨にも倒れず

（今年はとても台風がたくさん直撃しました。  
コスモスは倒れても倒れても又そこから  
雄雄しく立ち上がって花を咲かせます）

2005年 夏

かなかなと 日暮し暮れぬ 白樺の

霧にほのかな ともし灯の家

（日暮れと共に白樺湖畔の民家にはぼつりぼつりと  
灯が灯ります。）

風すさぶ 水のせせらぎ 音冴えて

寝るに寝られず 二転三転

（今年も台風が多く、夜はなかなか寝れませんでした）

焼き杉の 板に安らぐ 赤とんぼ

客も微笑み 我も微笑む

（赤とんぼやかなぶん、あおむらさきも飛んできます）

朝晴れて 昼の陽射しも かんかんと

それでも来るぞ 今日も夕立

（山は雲の流れも速く天気はいつも急変します）

2006年 夏

白樺の 夏も今年で 幾年ぞ

雲南広布は 先の又先

金はなし 夢なし欲なし 色気なし

生きる気もなし 生ける屍

盆冷夏 長雨どしゃぶり くそくらえ

今に見ている 憎き第六天

星空に ここは天国 白樺湖

帰れば地獄 どこもかしこも

2007年 夏

白樺の いじわるばあさん 訪ね来て

懐かし君は ふるさとの人

(喫茶店意地悪ばあさんのママは京都の人です)

さよならと かすかに笑みて 振る右手

懐かし君の 着物姿よ

あめ玉に 込めた思いを 知りもせで

喉はひりひり 夜も眠れず

地区は今 お代代わりで 居場所なし

錦宝会で 又会いましょう

2008年 夏

白樺の 小径を今日も 元気よく

うまい空気で 健康第一

車山 間近に見える 夏の空

ここは天国 白樺の里

凍え死ぬ 庭にほのかな 蠟梅は

懐かし君の 着物姿か

( 蠟梅は一番寒い頃に咲く梅の花で  
薄黄色をしています )

あてにすな 何にも気にせず 考えず

ただ押し通せ わが身一筋

( 座右の銘です。死ぬまでこれで押し通します )

中国に 毎年行けたら それでいい

( 最近の心境です )

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6694f/>

---

白樺の詩（うた）

2010年10月12日05時49分発行